

米国で活躍した金目の民権派青年

猪俣弥八 資料展

2019.11.9(土)～11.17(日)

於:金目公民館

猪俣弥八は、明治時代、若くして渡米し、アメリカで日本人の廃娼運動や労働環境の改善に尽力し、弱冠 35 歳の若さで銃弾に倒れた金目の青年です。

金目という地域は、明治時代に自由民権運動が盛んで、自由民権トリオと言われる宮田寅治、猪俣道之輔、森鑠三郎が活躍した場所でもあります。民権思想やキリスト教の人道思想に影響を受けた彼らは、互いに力を合わせ、福祉、教育などに情熱を注ぎます。そして「明治の文化村」と呼ばれるまでに金目の発展に大きく貢献しました。



明治元年生まれの弥八も、明治 16 年の金目観音堂での政談演説会を聞き、民権意識を強く持ったことでしょう。そして明治 20 年、宮田寅治、猪俣道之輔らとともにキリスト教に入信し、自由博愛精神を学びます。さらに欧米の書物で政治経済を知り、原文で学びたいとの思いから英語の勉強を始めますが、その進歩が遅いことから渡米を決意します。

明治 21 年、弥八 20 歳の時、大志を抱いてアメリカに渡り、カルフォルニア高校とオレゴン大学を卒業します。その後、教会牧師の補助として日本人娼家の排斥運動に従事したり、鉄道工事日本人入夫の請負業をしていた伴新三郎のもとでワイオミング州伴事務所支所長を務めながら日本人労働者の労働環境の改善に努めます。

将来を嘱望される中、明治 35 年、不幸にしてワイオミング州の河畔でアメリカに渡った同じ日本人労働者の銃弾に倒れ、35 歳の短い生涯を終えます。

猪俣弥八の活躍は渡米してからのため、今まで全く知られていませんでしたが、今回、雨岳民権の会の岩崎氏により発掘され、広く知られるようになりました。明治時代にアメリカに渡り、このような活躍をされた人が金目にいたということ、ぜひ地元の方にも紹介したいとの思いから、雨岳民権の会の全面的な協力を得て資料展を開催いたします。

開催に当たって資料を提供いただいた猪俣家に深く感謝申し上げます。

金目エコミュージアム